

命と安全を守る!

ハチオシ!

消防本部の最前線

本市では、市民の皆さんの安全・安心な暮らしのために、八尾市消防本部が火災の消火活動をはじめ、救助活動、救急活動、火災予防など、幅広く市民生活を守る活動を日々行っています。今回は、消防隊員の仕事や現場の最前線を紹介します。

☎ 消防本部予防課 ☎ 992-2275 ☎ 992-7722 ID 1002002



クイズ

「何に使うのでしょうか？」

消防士が火災や救助、救急の現場で使用するさまざまな道具。どんな場面で使われるか、考えてみてください!

➡ 答えはP5



今月の市民モデルさん

今回は八尾市消防本部で撮影を行いました。働く車が大好きなお兄ちゃんと、少し緊張しながらも一生懸命頑張ってくれた妹さん。カッコいい消防士さんたちと一緒に、素敵な表紙に仕上がりました!



各記事の詳しい情報は、市ホームページのページID検索に ID 7桁の番号 を入力すると、ご覧いただけます。



救助活動

火災、交通事故、水難事故、自然災害、機械による事故などで危険な状態にある人を、安全な場所に搬送します。本市の救助体制は、高度救助隊と志紀救助隊の計2隊を配置しています。

全国消防救助技術大会で、本市の救助隊員が入賞を果たしました！

全国消防救助技術大会は、昭和47年から全国の救助隊員が競い合い、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を高めるため毎年開催されています。これまで多くの隊員が全国大会に出場しており、令和7年の第53回大会では「ほふく救出」の部に3名が出場し、全国1位のタイムで入賞しました。

▼全国大会入賞メダル



ほふく救出訓練

ビルや地下街などで煙に巻かれた人を3人1組（要救助者を含む）で救出するための訓練



火災予防

火災を未然に防ぐための防火広報や防火指導、建物や消防設備の検査、危険物施設の安全管理などを行い、火災のない安全・安心なまちづくりを進めています。

住宅用火災警報器をつけましょう！ ☎1002337

住宅用火災警報器（住警器）は、火災によって発生する煙や熱をいち早く感知し、音や音声で火災の発生を知らせる機器です。住宅への設置が義務付けられています。電池タイプの住警器の交換目安は10年です。設置から10年が経過している場合は交換してください。また、半年に1回は点検（ボタンを押す、ひもを引く）を実施してください。



感震ブレーカーってどんな設備?? ☎1021254

東日本大震災における本震による火災の過半数が、電気関係の出火でした。感震ブレーカーは、地震の揺れを感知すると自動的に電気の供給を止める装置で、不在時でも電気火災の防止に役立ちます。感震ブレーカーを設置し、地震時の電気火災を防止しましょう。

新人消防士が配属されました！

新人消防士4人が大阪府立消防学校での6カ月間の厳しい初任教育を修了し、令和8年4月から消防署に配属されました。地域の安全・安心を守る消防士として新たな一歩を踏み出し、日々訓練を重ねながら業務に取り組んでいきます。



配属後は訓練強化期間を設け、消防技術や安全管理などを学ぶ実践的な訓練を実施。

救急活動

急病人やけが人のもとへ救急車で駆け付け、応急手当を行い病院へ搬送します。本市では24時間体制で6隊(本署・山本・志紀・栄町・高安・亀井救急隊)および日勤救急隊2隊の合計8隊が対応しています。

珍しいラッピングデザイン
救急車を3台配備!



▲マイナ救急活動



▲特定行為(除細動)

新しい

マスコットキャラクターが仲間入り!

「火災からまちを守るヒーロー」の「はちぼう」に続き、「けがや病気から命を守るヒーロー」の「はちきゅう」が誕生しました。はちきゅうの愛称は八尾の「八」と救急の「救」が由来で、市民の皆さんからの公募で決定しました。これから「はちぼう」とともにイベントなどに登場し、救急の活動や、命の大切さをPRしていきます。



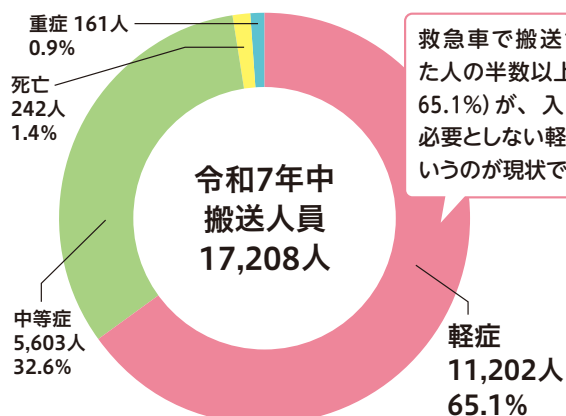
救急車の適正利用

にご協力ください!

救急車は、緊急性の高いけがや病気、命の危険が迫っている時などに利用するものです。本市では救急車の出場件数が増加しており、軽症者の利用が増えると、本当に救急車を必要とする人のもとへ出動できなくなる状況につながります。限られた台数の救急車を有効に活用し、緊急性の高い傷病者へ一刻も早く対応するためにも、救急車の適時・適切な利用が重要です。



傷病程度別搬送人員状況



出典:令和7年(1月~12月)における救急概況

死亡:初診時に死亡が確認されたもの
重症:傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症:傷病の程度が重症または軽症以外のもの
軽症:傷病の程度が入院加療を要しないもの
※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。



本当にあった事例 このような救急車の利用はお控えください!

- ✓ 病院でもらった薬がなくなったため救急車を呼んだ。
- ✓ 入院予定日で病院に行きたいが、雨なので救急車を呼んだ。
- ✓ ヘルパーが来なかったため、代わりに救急車を呼んだ。
- ✓ 転倒して膝を打ち、歩けるが心配なので救急車を呼んだ。
- ✓ 病院で長時間待ちたくないため救急車を呼んだ。



「救急車ならすぐ診てもらえる」は誤りです。

病院では来院方法に関係なく、症状の緊急度に応じて診察や治療が行われます。そのため、救急車で搬送されても優先的に診察されるとは限りません。軽い症状の場合は、自家用車やタクシーなどによる受診を検討してください。



救急車を呼ぶべきか迷ったら、救急安心センターへ電話を!

#7119
または 06-6582-7119

看護師などが医師の支援のもと、24時間365日対応し、緊急性の判断や医療機関の案内を行います。

救急車を呼んでもいいのかな? 病院に行ったほうがいいのか? 少しでも迷ったら、まず電話で相談してね!



緊急時は迷わず119番へ

日々の活動の様子を SNSで発信しています!

八尾市消防本部公式Instagramでは、火災予防や予防救急、消防行事やイベント情報、消防本部や職員の日常などを発信しています。ぜひフォローしてください。



救急車の適正利用を呼び掛ける動画が、1.8万回再生されたよ!



日々の訓練の様子なども公開しているから、ぜひチェックしてね!



P2のクイズの答え



1 布担架

丈夫な布でできた簡易搬送用具。小さく折りたたむため、階段や狭い場所での搬送に活躍します。



2 画像探索機 I 型

倒壊家屋などの隙間にカメラ付きチューブを入れ、内部の様子を確認する道具です。



3 背負い式消火水のう

林野火災などで使用される水消火器具。背負って運搬でき、足場の悪い場所でも消火活動が行えます。



4 可搬式ブロアー

強力な風で、煙や有毒ガスを屋外へ排出する装置。火災現場での視界確保や救助活動に役立ちます。